

# 生活苦しい家庭の子向け

# 生きる力育む食堂

生活困窮家庭の子どもたちに食事の場を提供する「こども食堂」で、生きていく力を育てようという取り組みが、あわら市内で始まる。「こども食堂 まる」と名付け、食べることを通して健康な体をつくったり、社会性を身に著けたりする機会にする。

(本田優子)

食堂が設けられるのは、社会福祉法人・聖徳園が運営する認定こども園「あわら敬愛こども園」(田中々)内で、二十二日に二回目を開催する。毎月第二、第四金曜日午後四時から開き、対象は十八歳以下の子どもとその保護者。一食三百円で提供する。

管理栄養士の志田尚美さん(三)「あわら市桐」と山崎佳子さん(五)「福井市若杉一丁目」がボランティアで取り組む。山崎さんが敦賀市内で同様の活動があることを知り「嶺北地域でも」と思い描いた。それを知った志田尚美さんがあわら市に相談。昨秋、こども園の渡邊一幸園長(五)を紹介されて具体化した。こども園でも、生活困窮家庭の引きこもり気味の中学生に食事に来るよう声を掛け続けたところ、生活のリズムを取り戻し、少しずつ登校できるようになった例があり、二人の思いに賛同。渡邊園長の呼び掛けで、市内の認定こども園十カ所から、地域貢献の一環として資金的な協力も得ることができた。献立は食育の祖といわれる福井出身の石塚左玄の教えであり、「生きる力」の場になれば」と期待する。

## 22日から あわらの有志実現



食堂では、ボランティアや食材の提供を募っている。園渡邊園長〓090(6270)64

をすすめる山崎佳子さん(五)と志田尚美さん(三)の打ち合わせの様子。渡邊園長(五)のあわらこども園で